

お口のくち

健康情報室

今回は「親知らず」についてお話しします。

親知らずは前から数えて8番目の歯で、永久歯の中で最後に発育します。生える時期がおおむね10歳代後半から20歳代前半で、「親に知られることなく生えてくる」ことが名前の由来とされています。一般的には、上下のあごに左右1本ずつで計4本ありますが、1本も無い人もいて、必ずしも4本がそろっているわけではありません。

親知らずが生えてきても、まっすぐ生えていて正常に機能していれば抜歯の必要はあ

親知らず 歯科医院に相談を

りません。しかし、生えてくる場所や生える方向が悪いことがしばしばあり、歯ぐきに炎症を起こしたり、正常な噛み合わせの妨げになったり、前方の歯に虫歯を作ったりするなどの悪影響が出た場合は、抜歯を検討してください。

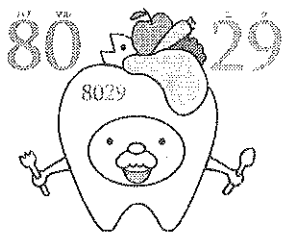
時々、悪い親知らずがあっても「痛くなったら抜歯すればいい」と放置する人を見かけますが、腫れや痛みが強いと抜歯ができません。洗浄や投薬によって炎症を鎮めてから抜歯することになり、困ったからといってすぐに抜歯できるとは限りません。知っておいってください。

抜歯する場合、親知らずの大部分が骨の中に埋まっている、歯の根っこの形が複雑だったりすると、歯肉を切開

したり、骨や歯を削ったりするため、抜歯にもかなりの注意と手間が必要となります。なお、こうした親知らずの状態のほか、患者さんに持病があるなどの場合、入院や全身麻酔下での管理が必要となるケースもあります。

親知らずについての疑問や問題を感じた方は、まずかかりつけか最寄りの歯科医院、歯科医師に相談してください。（県歯科医師会）

健康長寿の合言葉！！



「8029運動」PRキ
ャクター もぐい